

（第1面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月23日

大阪府知事 殿

受	付
05.6.29	
産指第	号
大阪府	

提出者

住 所 大阪府大東市寺川1丁目1番31号

氏 名 (医)仁泉会 阪奈病院 理事長 伊泊 大造

電話番号 072-874-1111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	医療法人仁泉会 阪奈病院
事業場の所在地	大阪府大東市寺川1丁目1番31号
計画期間	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	83：病院
②事業の規模	192床
③従業員数	210人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙のとおり

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	排出量	121.251 t	— t
	(これまでに実施した取組) ・感染対策委員会において、適宜、院内廃棄物の分別方法の見直しを行っている。 ・全職員に対し、分別の周知徹底を行い、正確な廃棄物処理に取り組んでいる。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	排出量	110.000 t	— t
	(今後実施する予定の取組) ・全職員に対し、ポスター等の掲示を取り入れ、分別の周知徹底を行い、産業廃棄物の抑制に繋げる。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・感染性廃棄物は、他の廃棄物と区別し分別保管している。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・引き続き分別保管する。

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） ・実施していない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） ・予定なし。		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
（これまでに実施した取組） ・実施していない。			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
（今後実施する予定の取組） ・予定なし。			

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ・予定なし。		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

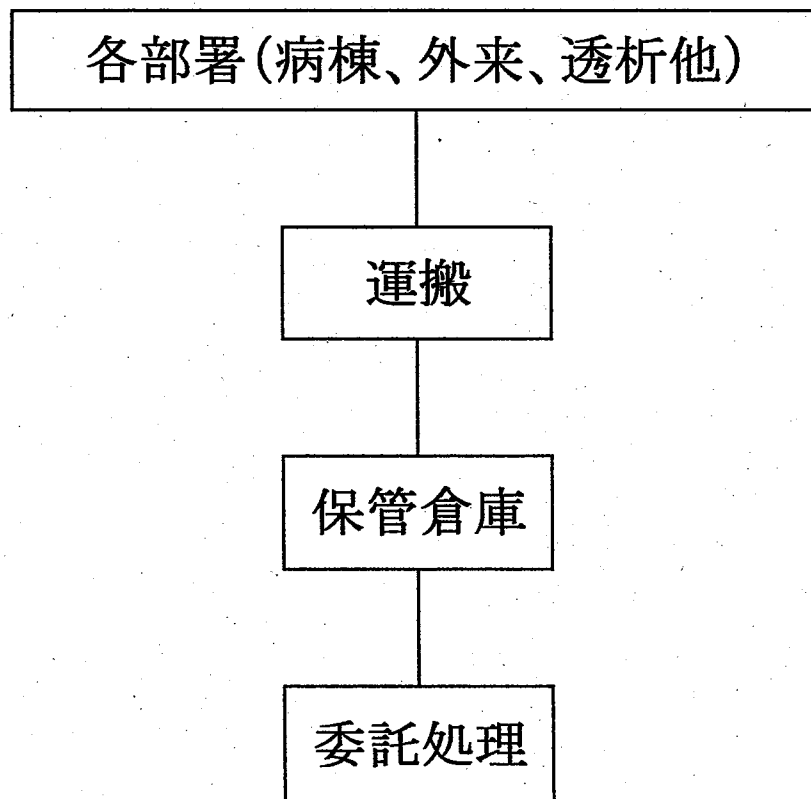
①現状	【前年度（4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	全処理委託量	121.251 t	— t
	優良認定処理業者への処理委託量	95.484 t	— t
	再生利用業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ・産廃情報ネット等の情報を参考に、委託基準を遵守できる産廃処理業者を選定しており、定期的に処理状況の現地確認を行っている。また、昨年度業者入れ替わりにつき、今後、現地確認を予定している。		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	—
	全処理委託量	110.000 t	— t
	優良認定処理業者への処理委託量	100.000 t	— t
	再生利用業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>・廃棄物についての分別方法等のポスター掲示による、全職員への周知徹底をはかる。</p>		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		121.251 t
	<p>(今後実施する予定の取組等)</p> <p>・コロナ病棟の使用状況により、大きく数量的に依存するがその増減を加味し、その他の病棟での抑制意識を持ち、減量に努める。</p>		
※事務処理欄			

備考

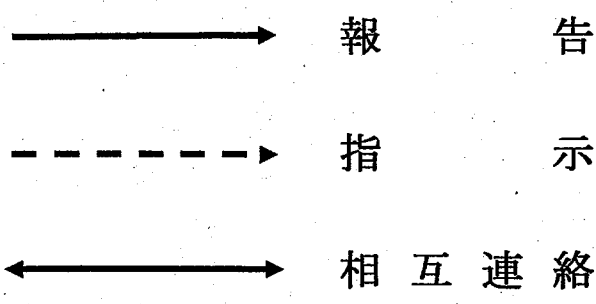
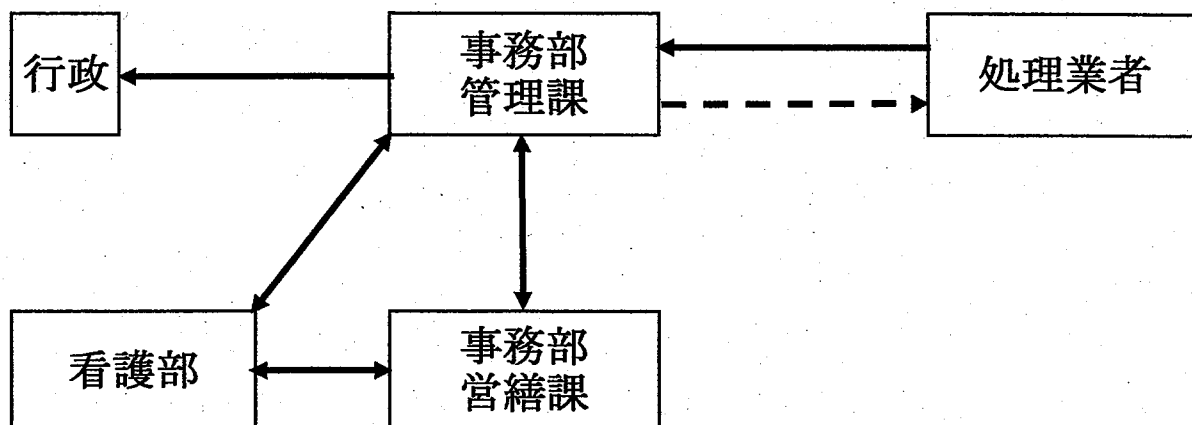
- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トンを超える者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

[感染性廃棄物発生工程フロー]



管理体制図及び各部署の役割

[管理体制図]



[各部署の役割]

部 署	役 割
事務部 管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・行政に対する報告等 ・処理業者委託契約、委託量、委託伝票(マニフェスト)等の管理 ・産業廃棄物の適正管理及び減量化等に関する社内啓発 ・各部署間の調整及び指示 ・廃棄物の資源化・減量化及び適正管理について検討し産業廃棄物処理計画の策定及びその実施 ・感染性廃棄物の適正費用の算出
看護部	<ul style="list-style-type: none"> ・感染性廃棄物及びその他の廃棄物の分別廃棄の徹底 ・保管場所の管理 ・排出状況の把握及び管理 ・産業廃棄物の適正管理及び減量化等に関する社内啓発 ・感染性事故防止対策の徹底
事務部 営繕課	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の種類、性状、発生量等の把握 ・保管施設での保管量の把握等 ・感染性事故防止対策の徹底